様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６３３
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ１２２３３

研究課題名（和文）近代日本における社中を通じた邦楽の趣味縁形成過程の解明―箏・長唄を中心に―

研究課題名（英文）Elucidation of the formation process of the hobby network in the Japanese traditional music training group "Shachu" in modern Japan: Focusing on the cases of Koto and Nagauta groups

研究代表者
歌川　光一（UTAGAWA, Koichi）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：５０７０８９９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　700,000円

研究成果の概要（和文）：　第一に、近現代の女性のアマチュア芸術文化活動の教習をめぐる概念（「趣味」「たしなみ」「稽古(事)」「習い事(物)」）等の変遷や相互の関連について整理を行った。合わせて、欧米のレジャースタディーズで用いられている「シリアスレジャー」概念と上記の概念の関連について考察し、研究領域としての展望を示した。第二に、第一の作業を踏まえ、近代日本における中上流階級女子の箏、長唄、ピアノのたしなみに関わる言説から、「趣味」の受容のプロセスを明らかにし、単著として発表した。第三に、アマチュアの活動実態として、旧制中等学校の校友会・同窓会活動、社中の活動について資料収集と整理を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「趣味」「たしなみ」「稽古(事)」「習い事(物)」等と称されてきた近現代の女性のアマチュア芸術文化活動の教習は、レジャースタディーズ、芸術諸学、教育学、社会学等のいずれの研究分野においても断片的な探究に留まってきた。本研究は、これらの研究領域の成果と課題を整理しつつ、近代日本の社中を通じた中上流階級女子の箏・長唄の趣味活動の展開を明らかにし、家元制度が稽古文化に実質的に果たした機能を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：First, I organized the over-the-years transformation and mutual relationships of the concepts ("hobby", "taste", and "cultivation") encompassing the lessons of amateur art and cultural activities of modern women. At the same time, I showed the relationship between the "serious leisure" concept used in Western leisure studies and the aforementioned concepts yand the prospects as a research area.Moreover, the acceptance of the word "hobby/hobbies" from the discourses related to Koto, Nagauta and Piano Play of both middle and upper class women of modern Japan ,has been clarified and made it in a single book.Finally, the amateurs' activities. Materials regarding the activities of various alumni association of secondary school and their apprentices , have been collected and organized .

研究分野：教育文化史

キーワード：趣味　たしなみ　稽古（事）　花嫁修業　箏　長唄　邦楽　社中

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本では 1970 年代以降、「地縁」「血縁」「社縁」（学校や職場における人間関係）を乗り越えるような新たな人間関係として、バンド、同人誌サークル、ファンクラブ、サポーターなどを通じた「趣味縁」が広まりを見せている。この趣味縁は、必要に応じた協力関係の構築を促すものであり、社会参加を促すものとして着目されている。音楽も例外ではなく、ポピュラー音楽を「道具」として用いながら他者と関わり居場所を作る、という形での趣味縁形成が見られ、参加者にとっては社会関係資本の蓄積の場ともなっている。

しかし、趣味縁形成をめぐる音楽社会学の議論は、情報化が進んだポスト産業社会以降の日本におけるポピュラー音楽文化に焦点を当てたものであり、華士族の階層文化が混ざり、威信の高い中上流階級文化のあり方が確立していなかった近代日本において、音楽、とりわけ箏・長唄等の邦楽の趣味縁がいかに形成されたかは十分明らかになっていない。

この要因として、研究分野間の隙間が作り出す死角によって、近代日本における邦楽のたしなみという身体化された芸術・芸能が、検討対象として認識されてこなかったことが挙げられる。すなわち、芸術史、教育史研究では近代化以降の洋楽愛好者増加を、芸能史研究では近世における邦楽愛好者増加を重視するため、近現代の邦楽のたしなみに焦点が当たらなかった。

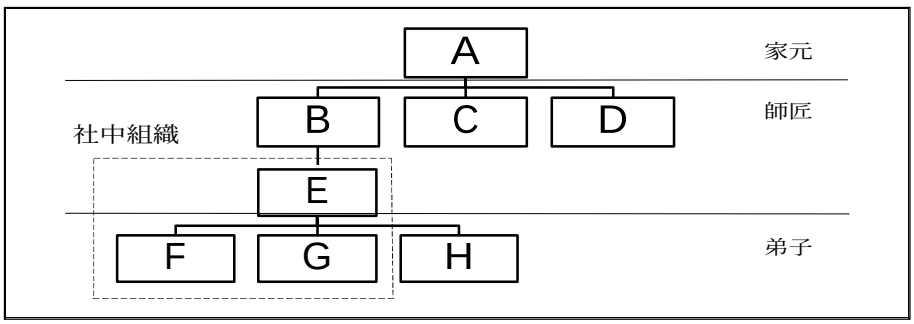
邦楽は、今日からすれば「伝統芸能」として権威性を帯びた音楽ジャンルとしてみなされやすいが、近代日本においては洋楽よりも大衆性があり、華族、実業エリート男性やその妻、娘などにもたしなまれていた。近代日本における箏・長唄を中心とする邦楽の趣味縁形成を明らかにすることは、アマチュアの視点から音楽史を描き直すことを意味し、戦後の趣味縁形成の淵源の把握のために必要不可欠である。

２．研究の目的

日本においては、近代化以降も稽古文化が盛んであったことが知られている。これを背景とし、本研究の目的は以下の 2 点にある。

第一に、近代以降の邦楽のたしなみに着目する点にある。本研究を通じて、近代以降、同じく中上流階級のたしなみの対象となり、現在でも生活文化として位置づく茶道・華道等の他の芸能史研究の可能性を広げることを企図している。

第二に、本研究では、邦楽愛好者の趣味縁形成を活動実態と愛好者のネットワーク化の観点から解明するために、活動単位として「社中」に着目する。「社中」とは、邦楽演奏者のグループを示す呼称である。邦楽界では、家元の下に師匠が育成され、師匠が弟子をとる階層システムとして家元組織が形成される。この家元組織中の師匠と弟子により「社中」が形成される（以下の図を参照のこと）。「社中」は師匠を頂点とし、邦楽愛好者が弟子として稽古や「温習会（おさらいかい）」等の成果発表会を行う際の単位となるグループである。芸能史研究において、家元制度研究が進展を見せてきたが、その末端組織である社中は視点として設定されてこなかった。



図：邦楽の家元制度の組織図

出典）八木匡ほか「伝統芸能における実演家組織の収益システム」『文化経済学』9-1、図２を簡略化。

３．研究の方法

本研究では、明治後期～昭和戦前期における邦楽社中の活動実態と愛好者のネットワーク化の解明を、①特定の社中の活動実態の掘り起こしと通史の作成、②愛好者個人のプロフィール整理によって行う。

①について、第一に、箏・長唄等の邦楽愛好者の量的概要を把握するために、遊芸師匠に関する諸統計、新聞記事、雑誌記事等を収集した。施設としては、日本近代音楽館（明治学院大学内）、東京藝術大学附属図書館、国立国会図書館、東京都立図書館にて調査を行った。第二に、旧制高等女学校関連資料の購入、訪問による資料調査を行った。第三に、社中の活動実態を把握するための資料として、社中所蔵の沿革史・機関誌を収集する。

②について、第一に、社中が果たした役割を把握するための手段として、愛好家事典、趣味事典、また関連する雑誌記事等を収集した。具体的には、林淑姫編集・解題『昭和前期音楽家総覧 ：『現代音楽大観』』（ゆまに書房、2008 年）等の中から、邦楽社中の活動に関する記述を分析した。これらの資料から、邦楽愛好に至った経緯や、どの社中で稽古をしているか等の情報の整理を行った。

４．研究成果

本研究の成果は、大きく分けて以下の３点である。

第一に、近現代の女性のアマチュア芸術文化活動の教習をめぐる概念（「趣味」「たしなみ」「稽古(事)」「習い事(物)」）等の変遷や相互の関連について整理を行った。合わせて、欧米のレジャースタディーズで用いられている「シリアスレジャー」概念と上記の概念の関連について考察し、研究領域としての展望を示した（宮入恭平・杉山昂平編著『「趣味に生きる」の文化論―シリアスレジャーから考える』ナカニシヤ、2021 年所収）。

第二に、この作業を踏まえて、近代日本における中上流階級女子の箏、長唄、ピアノのたしなみに関わる言説から、「趣味」（Hobby）の受容のプロセスを明らかにし、単著化した（『女子のたしなみと日本近代―音学文化にみる「趣味」の受容』勁草書房、2019 年 3 月）。これに対して書評という形で反応を得るとともに（早稲田大学・湯川次義氏、浦和大学・眞有澄香氏、成蹊大学・今田絵里香氏、帝塚山学院大学・土田陽子氏、昭和女子大学・福田委千代氏、奈良学園大学・矢野正氏、立命館大学・丸山彩氏。2021 年 5 月時点）、余暇ツーリズム学会 2019 年度余暇ツーリズム学会賞（学術部門表彰）、昭和女子大学女性文化研究所 第 12 回女性文化研究奨励賞を受賞した。これらを通じ、本研究の課題も明確となった。

第三に、アマチュアの活動実態として、旧制中等学校の校友会・同窓会活動、社中の活動について資料収集と整理を行った。今後も成果発表を継続予定である。2019 年度末からの Covid-19 感染拡大の中、資料収集にご協力いただいた関係者に感謝の意を表したい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 歌川光一	４．巻 108
２．論文標題 REPLY　土田陽子氏の『女子のたしなみと日本近代―音楽文化にみる「趣味」の受容』の書評に応えて	５．発行年 2021年
３．雑誌名 教育社会学研究	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 歌川光一	４．巻 14
２．論文標題 ピアノのお稽古経験はようやく日の目を見るか？―ストリートピアノ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 音楽文化の創造（CMC）電子版	６．最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 シリアスレジャーから日本の社会教育・生涯学習実践を見直す
３．学会等名 余暇ツーリズム学会2020年度レジャースタディーズ部会
４．発表年 2021年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 戦前期日本における「趣味」のHobby化とジェンダー化―中等学校就学者層を中心に―
３．学会等名 東京大学B'AIグローバルフォーラム「レジャーにおける格差・差別・スティグマ」研究会第2回
４．発表年 2021年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 第12回女性文化研究奨励賞受賞者記念
３．学会等名 第12回昭和女子大学女性文化研究賞・昭和女子大学女性文化研究奨励賞受賞者記念講演（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 昭和戦前期の高等女学校校友会・同窓会雑誌にみる遊芸の稽古文化 ―東京府立のナンバースクールを事例に―
３．学会等名 第4回日本風俗史学会研究例会（関東支部大会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 昭和戦前期の遊芸文化の展開における高等女学校の位置
３．学会等名 余暇ツーリズム学会レジャースタディーズ部会（2019年度第1回）
４．発表年 2019年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 近代化の中の女性の嗜み
３．学会等名 2019年度余暇ツーリズム学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 歌川光一（応答）・大塚明子（評者）ほか
２．発表標題 『趣味とジェンダー』『女子のたしなみと日本近代』書評会
３．学会等名 余暇ツーリズム学会レジャースタディーズ部会（2019年度第2回）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉住小三代・歌川光一・米原範彦・高橋敬子
２．発表標題 三味線音楽の軌跡と未来　「遊芸」から「たしなみ」そして「アイデンティティ」
３．学会等名 長唄吉住会百周年記念事業邦楽シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 戦前期日本における「稽古事」の問題化過程
３．学会等名 余暇ツーリズム学会レジャースタディー部会（2018年度第1回）
４．発表年 2018年

１．発表者名 歌川光一
２．発表標題 女子のたしなみと日本近代―音楽文化にみる「趣味」の受容
３．学会等名 昭和女子大学人間社会学部研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

1．著者名 歌川光一	4．発行年 2021年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 202（内、10ページ）
3．書名 宮入恭平・杉山昂平編『「趣味に生きる」の文化論』(第2章「アマチュア：「稽古（事）と「たしなみ」」担当)	

1．著者名 歌川　光一	4．発行年 2019年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 304
3．書名 女子のたしなみと日本近代―音楽文化にみる「趣味」の受容―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関